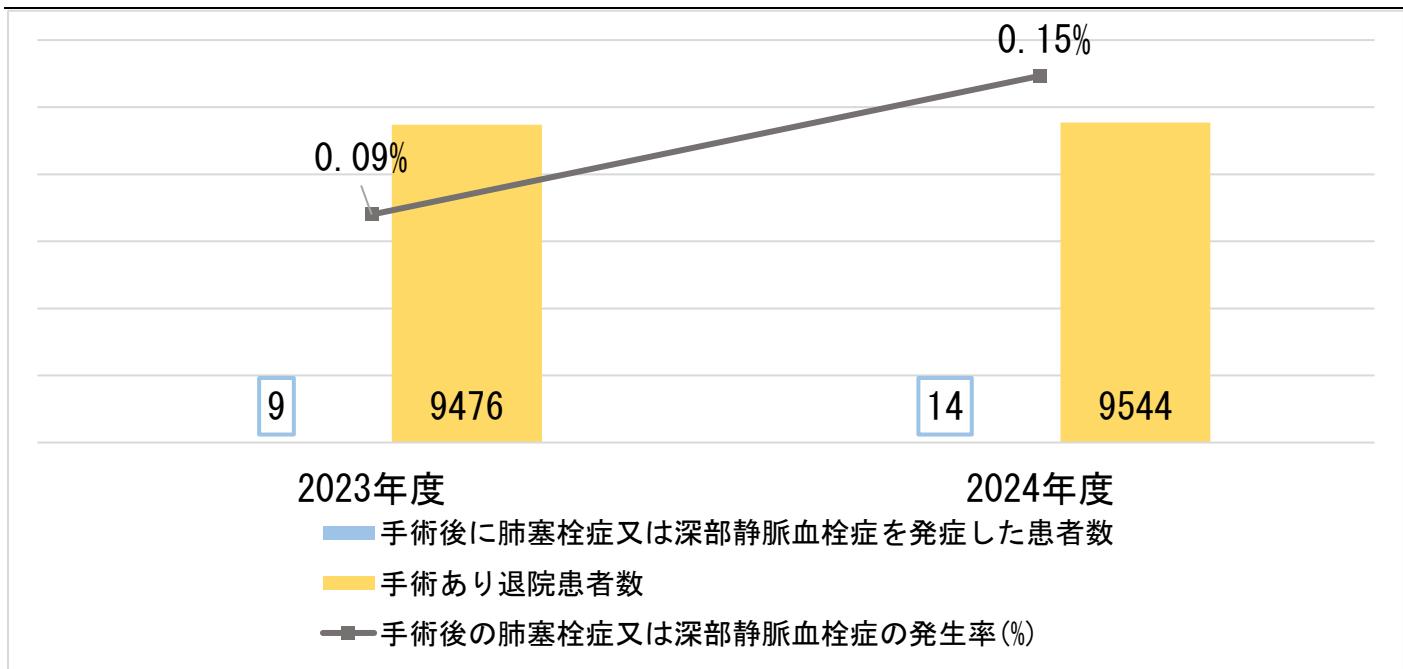


手術後の肺塞栓症または深部静脈血栓症の発生率



■ 定義

$$\frac{\text{手術後に肺塞栓症又は深部静脈血栓症を発症した患者数}}{\text{手術あり退院患者数}} \times 100 = \text{手術後の肺塞栓症又は深部静脈血栓症の発生率}$$

■ 指標の解説

肺塞栓症、深部静脈血栓症は血栓の大きさや血流障害の程度によって死亡する場合があります。肺塞栓症・深部静脈血栓症の発症率が低ければ、院内で適切な予防対策が実施されており、周術期における患者管理の質が高いことがわかる指標となります。

■ 改善活動

Plan

手術患者の肺塞栓症・深部静脈血栓発症の減少

(活動計画)

・深部静脈血栓塞栓症リスク評価票の改訂

Do

深部静脈血栓塞栓症リスク評価票の改訂版について、評価しやすい画面表示になるように情報システム係と協議を繰り返し、10月1日より改訂版へ変更した。また、改訂版をセーフティーマネージャー会議で周知した。

(下半期)

- ・改訂版リスク評価票の周知
- ・改訂版リスク評価票の使用率

(年度末)

- ・静脈血栓塞栓症リスク評価票での適正評価と予防対策実施率を向上する。
- ・周術期肺血栓塞栓症予防マニュアルの改訂中であるため、次年度に完成させる。

Action

(上半期)

10月に改訂版静脈血栓塞栓症リスク評価票の運用を開始し、肺塞栓症又は深部静脈血栓症の発症は4月～9月まで3名であった。

(年度末)

下半期の肺塞栓症又は深部静脈血栓症の発症は1～3名/月であり、昨年度より発生率は増加していた。しかし、重症化にまで至ることはなかった。適切にリスク評価を実施して予防対策を継続していくことが重要である。

Check